

## 離島振興の成果と現状

これまでの離島振興施策により、離島地域においては、各種基盤整備が進められ、生活環境が改善されるなど着実に成果があがってきた。しかし、人口減少や高齢化の進行をはじめとして、離島を取り巻く環境には依然として厳しいものがある。

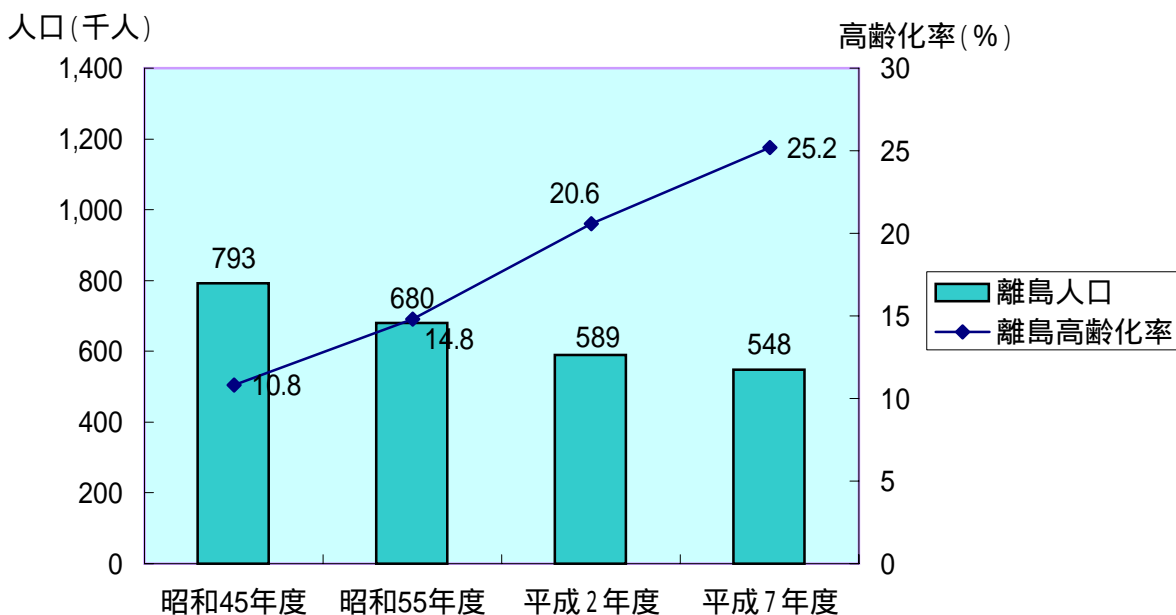
人口及び高齢化の推移の比較	.....	1
所得水準の推移の比較	.....	2
污水处理施設整備率の推移の比較	.....	3
国県道改良率・舗装率の比較	.....	4
財政力指数の推移の比較	.....	5
10万人当たり常勤医師数の推移の比較	.....	6
10万人当たり病院・診療所の病床数の推移の比較	.....	7
産業分類別就業者数の推移の比較	.....	8
離島における主要な産業の就業者数の推移の比較	.....	9
離島における農林水産業生産額の推移	.....	10
観光客数及び宿泊者数の推移の比較	.....	11

## 人口及び高齢化率の推移の比較（離島と全国）

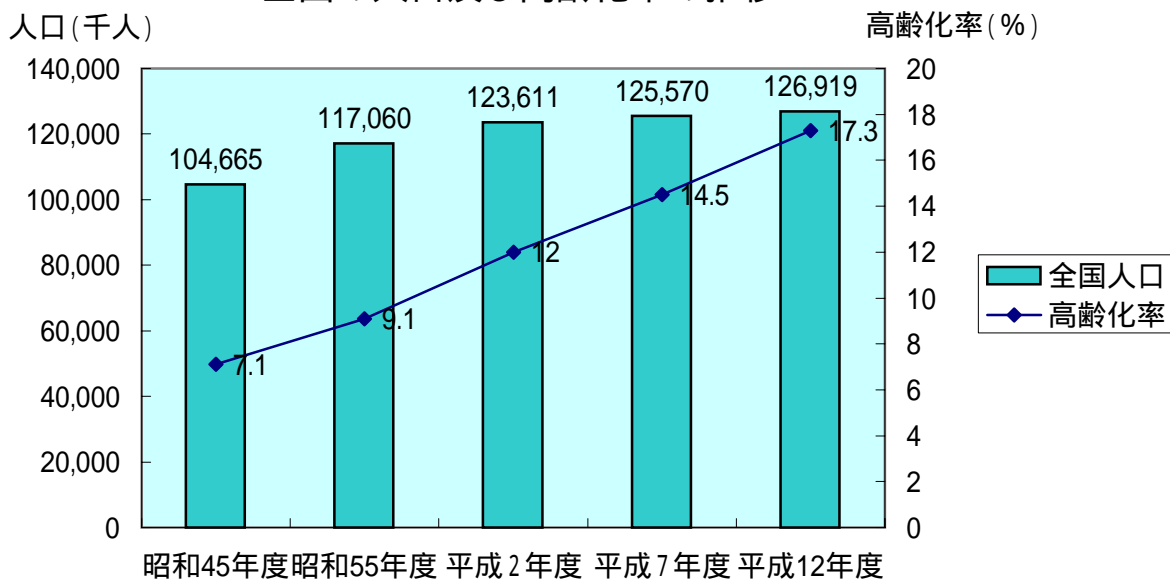
離島地域の人口は昭和45年度が793千人であったのに対し平成7年度は548千人であり、30.9%の大幅減となっている。

高齢化率については、全国の高齢化率が昭和45年度は7.1%であったのに対し平成7年度は14.5%であり、7.4ポイントの増となっている一方、離島の高齢化率は昭和45年度が10.8%であったのに対し平成7年度は25.2%であり、14.4ポイントの増となっている。

### 離島の人口及び高齢化率の推移



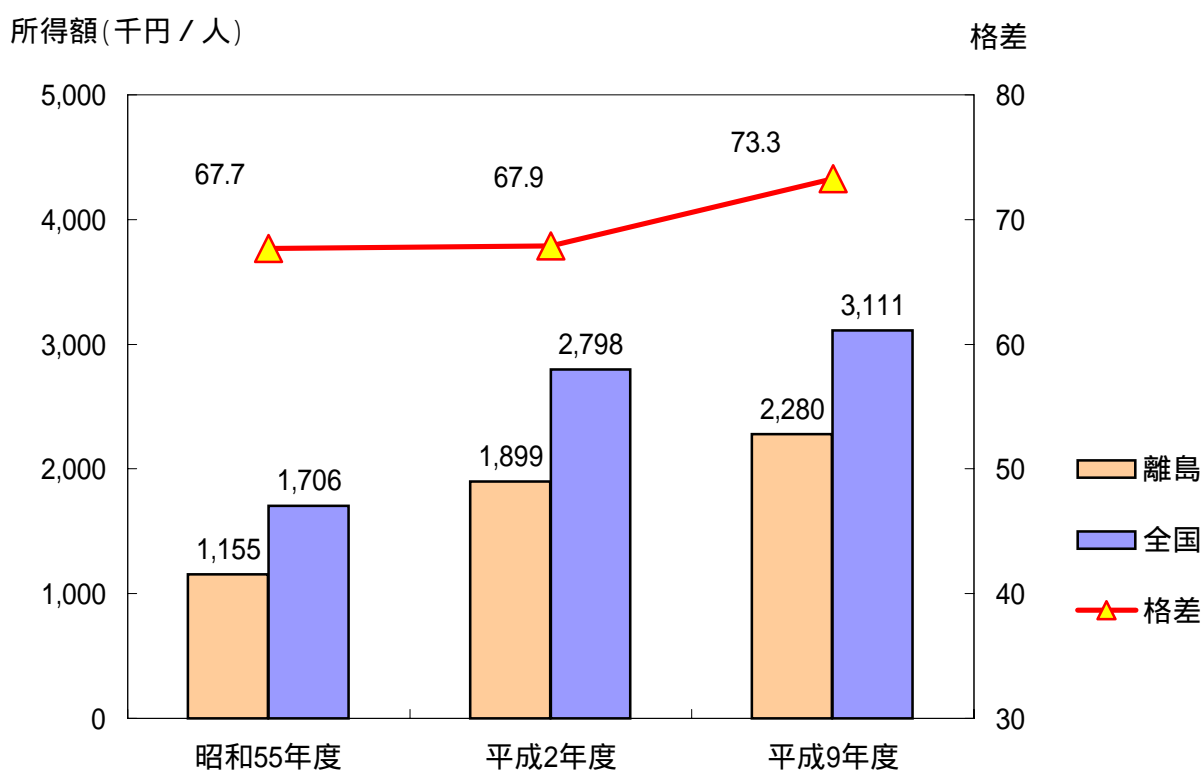
### 全国の人口及び高齢化率の推移



## 所得水準の推移の比較（離島と全国）

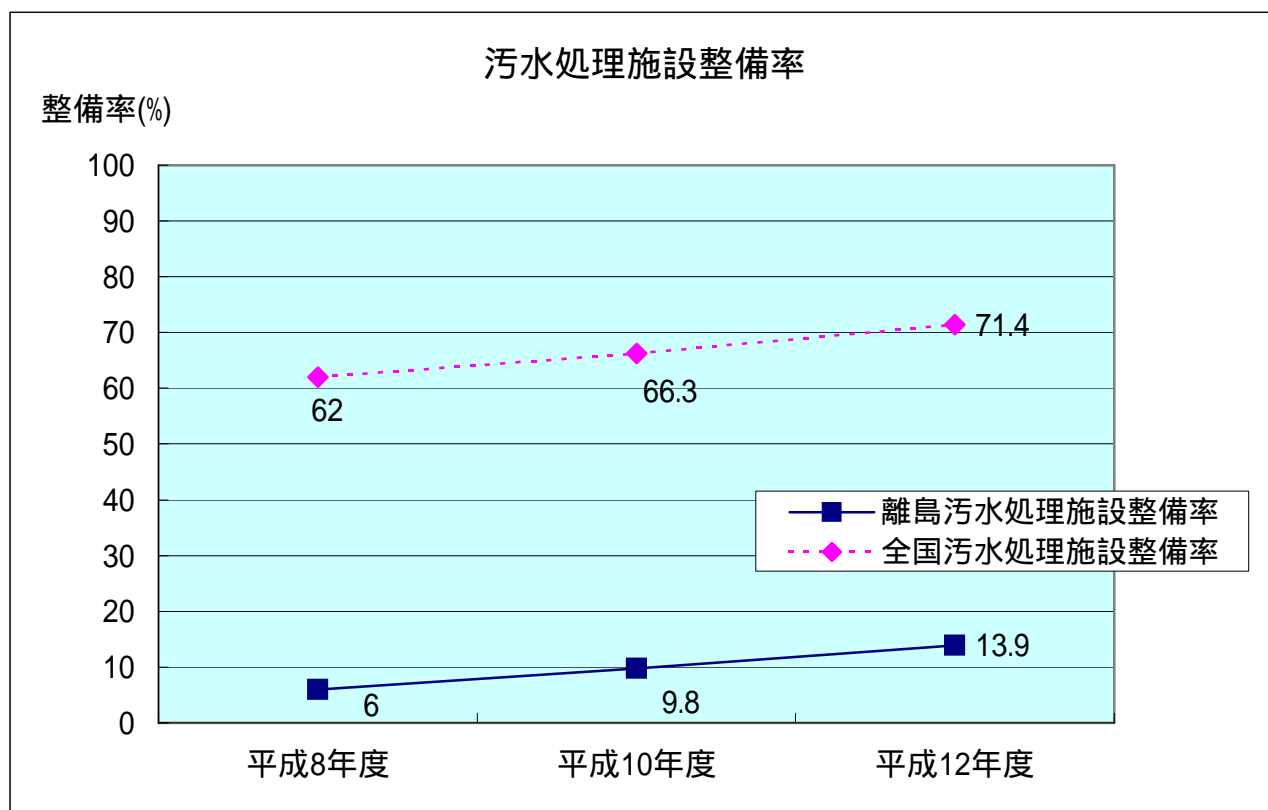
全国と離島地域の所得水準の格差の推移を比較すると、全国を100とした場合の離島地域の所得水準は昭和55年度では67.7であったが、平成9年度では73.3であり、格差は縮小傾向にあるが、まだ全国の7割程度である。

### 全国と離島の所得水準、格差の推移(全国を100として)



## 汚水処理施設整備率の推移の比較（離島と全国）

平成12年度末時点での離島地域における汚水処理施設整備率は13.9%となっているが、全国の平均は71.4%となっており、離島における汚水処理の体制は本土に比べ大幅に遅れている。



### 1) 汚水処理施設整備率

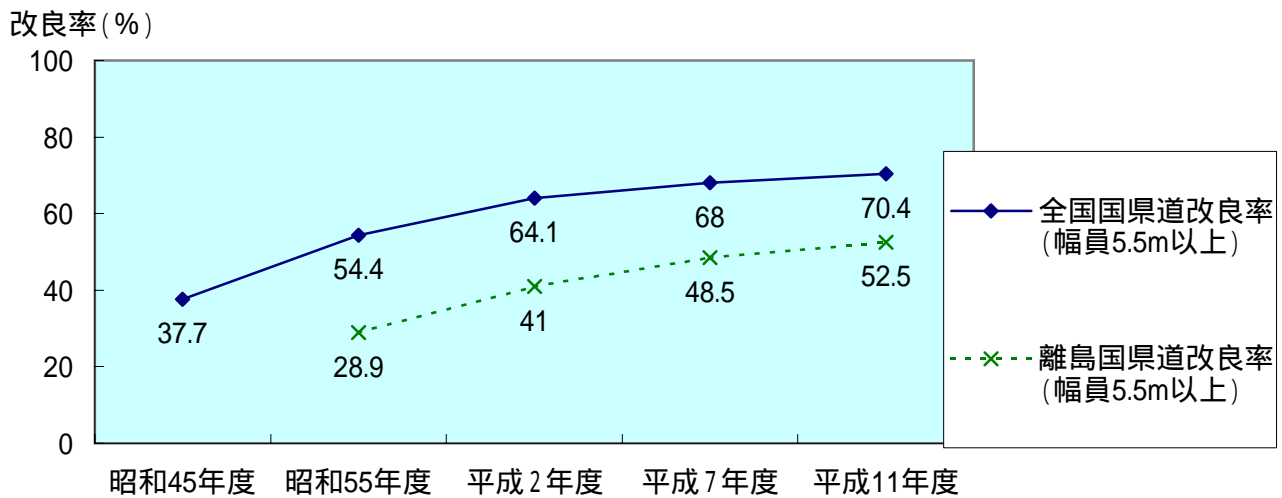
...下水道、農業集落排水施設等、合併処理浄化槽、コミュニティプラントの汚水処理施設による整備人口の総人口に対する割合。

2) 汚水処理施設整備率については平成8年度より各種汚水処理施設の整備状況の把握のため統合された数値であり、それ以前は各省個別のデータが存在するのみで、離島と全国の把握が難しい。

## 国県道改良率・舗装率の比較（離島と全国）

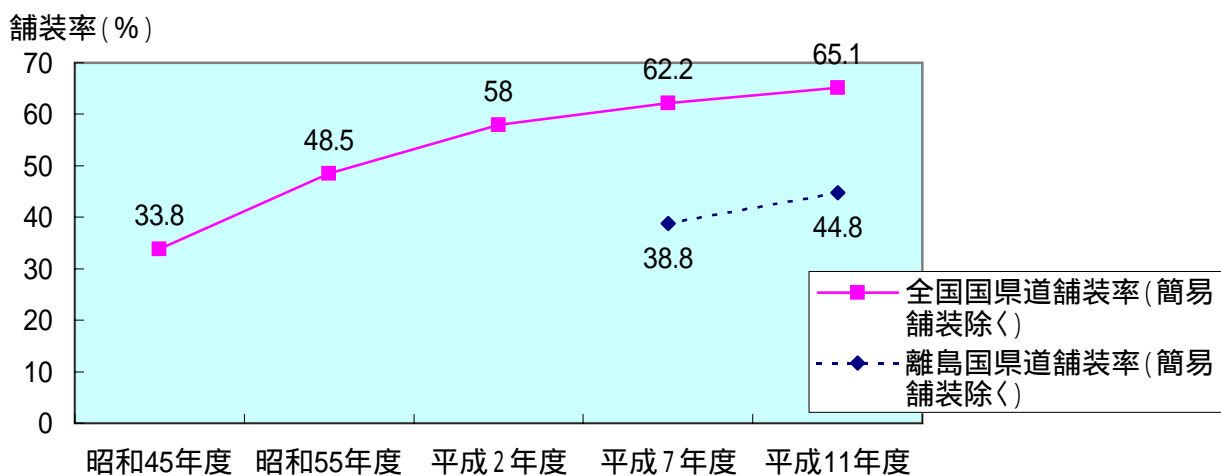
幅員5.5m以上の道路改良率については、平成11年4月現在で、全国70.4%に対して離島52.5%、簡易舗装を除いた道路舗装率については、平成10年4月現在で、全国65.1%に対して離島44.8%となっている。

道路改良率(幅員5.5m以上)(国県道)の推移



離島分は、昭和45年度についてはデータがない。

道路舗装率(簡易舗装除く)(国県道)の推移

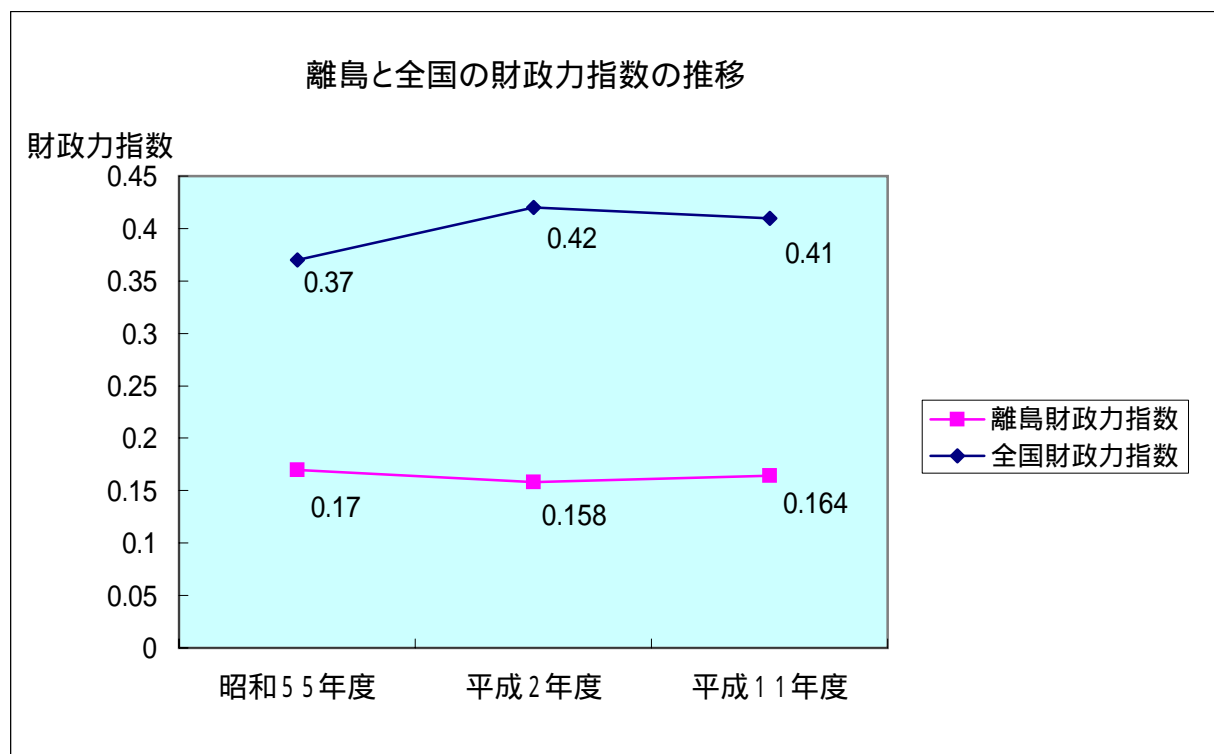


離島分は、昭和45年度、昭和55年度、平成2年度についてはデータがない。

## 財政力指数の推移の比較（離島と全国）

全国は、昭和55年度の0.370から平成2年度に0.420に上昇し、その後ほぼ横ばいとなっているのに対し、離島では、昭和55年度の0.170から平成2年度に0.158に低下し、その後ほぼ横ばいとなっている。

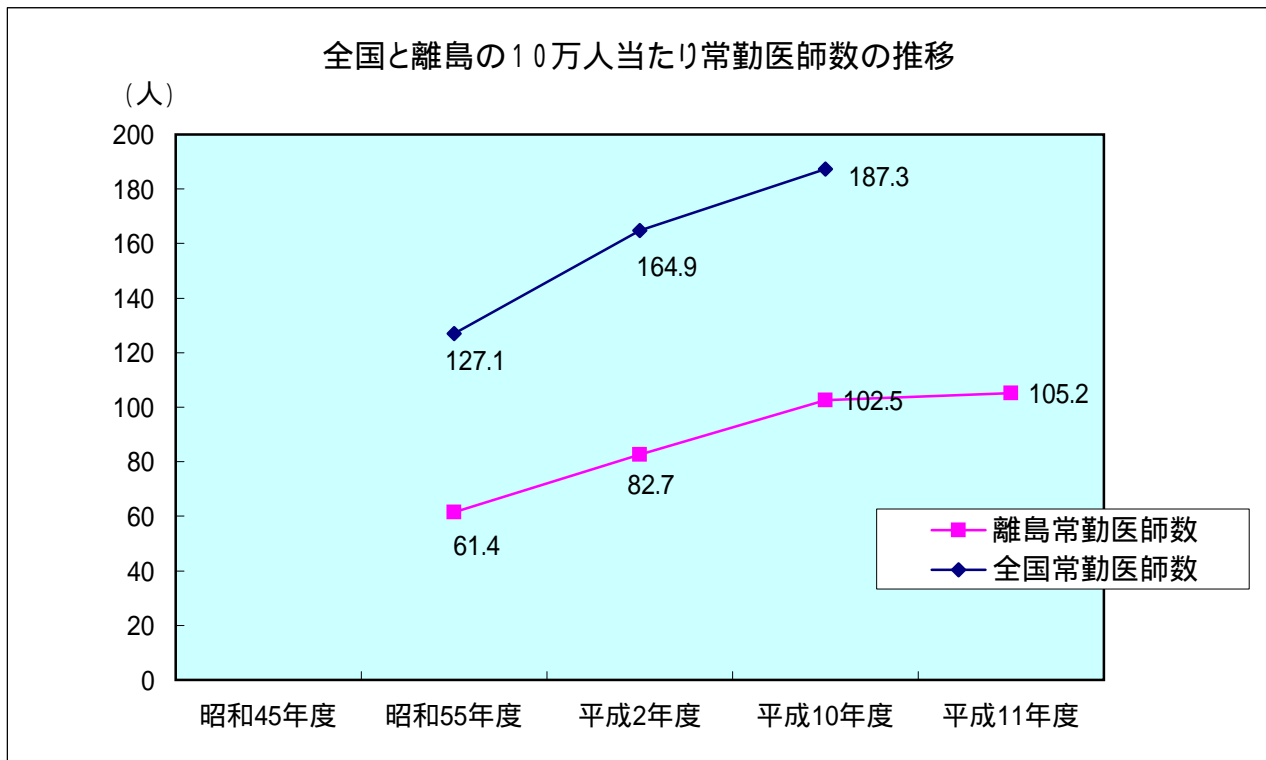
このため、全国と離島の格差は、昭和55年度の0.2から平成11年度の0.246と若干拡大している。



## 10万人当たり常勤医師数の推移の比較（離島と全国）

離島地域と全国の10万人当たり常勤医師数を比較すると、昭和55年度では全国が127.1人であったのに対し離島地域は61.4人であり、その差は65.7人であったが、平成10年度では全国が187.3人であったのに対し離島地域は102.5人であり、その差は84.8人となっている。

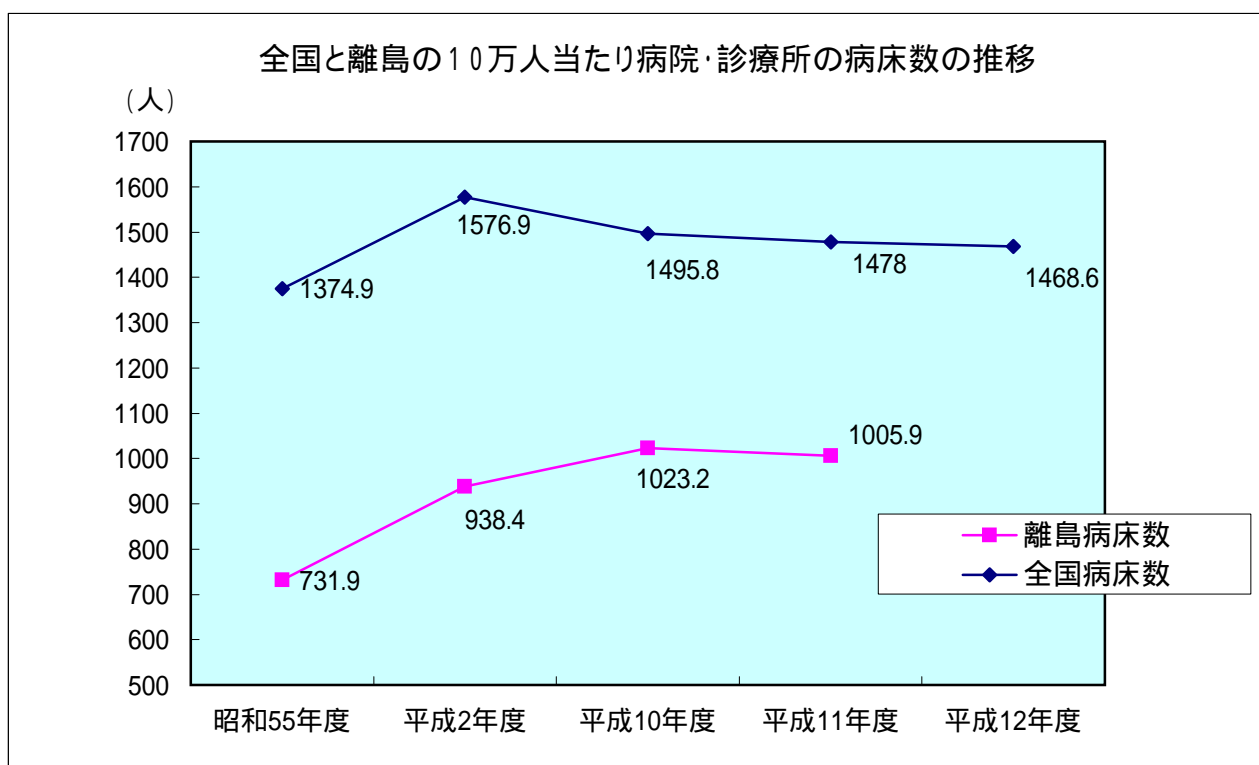
増加率については、離島地域は66.9%、全国は47.4%であった。



## 10万人当たり病院・診療所の病床数の推移の比較（離島と全国）

離島地域と全国の10万人当たりの病院・診療所の病床数を比較すると、昭和55年度では全国が1374.9床であったのに対し離島地域は731.9床であり、その差は643床であったが、平成11年度では全国が1478.0床であったのに対し離島地域は1005.9床であり、その差は472.1床となっている。

増加率については、離島地域は37.4%、全国は7.5%であった。



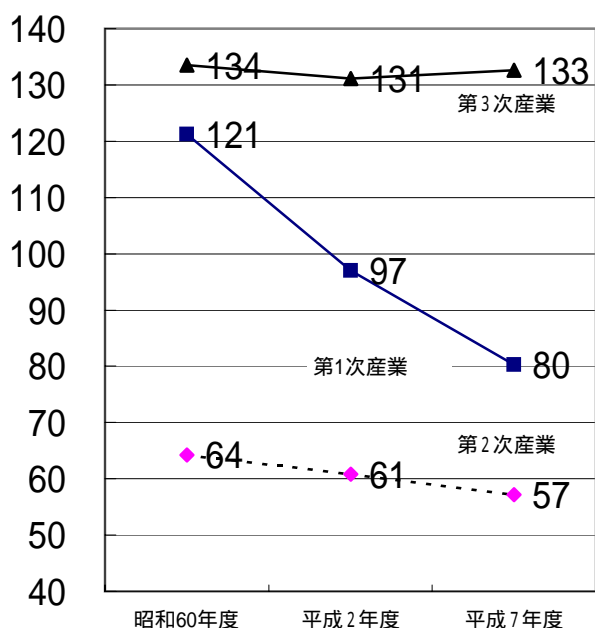


## 産業分類別就業者数の推移の比較（離島と全国）

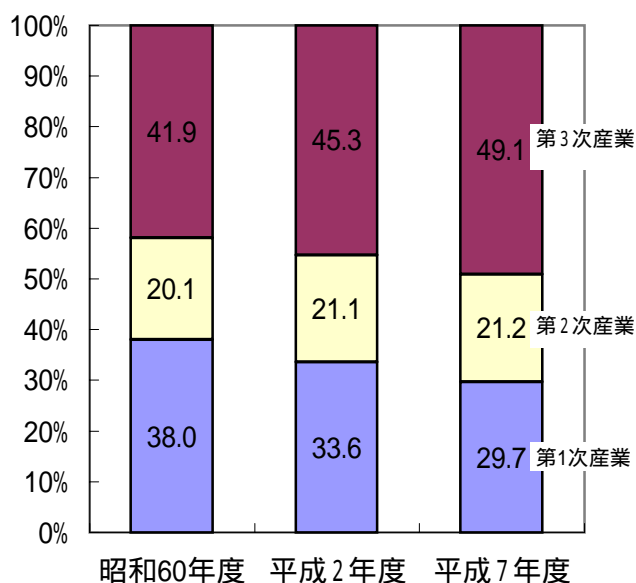
離島の産業分類別就業者数の構成比を、統計資料のある昭和60年度以降でみると、第1次産業では昭和60年度の38.0%から平成7年度には29.7%と減少している。これに対して第3次産業では昭和60年度の41.9%から平成7年度には49.1%と増加している。

一方、全国の産業分類別就業者数の構成比についても、離島と同様に第1次産業が減少し、第3次産業が増加しているが、離島でほぼ横ばいである第2次産業は微減となっている。

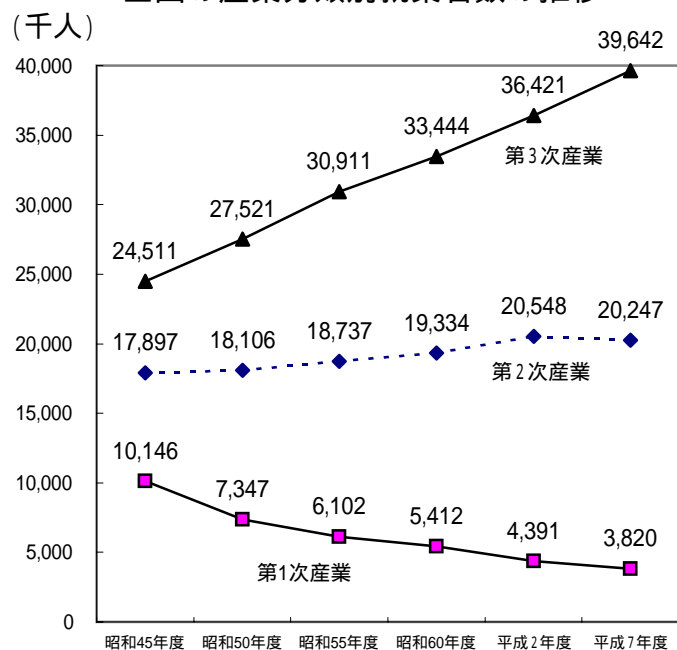
離島の産業分類別就業者数の推移  
(千人)



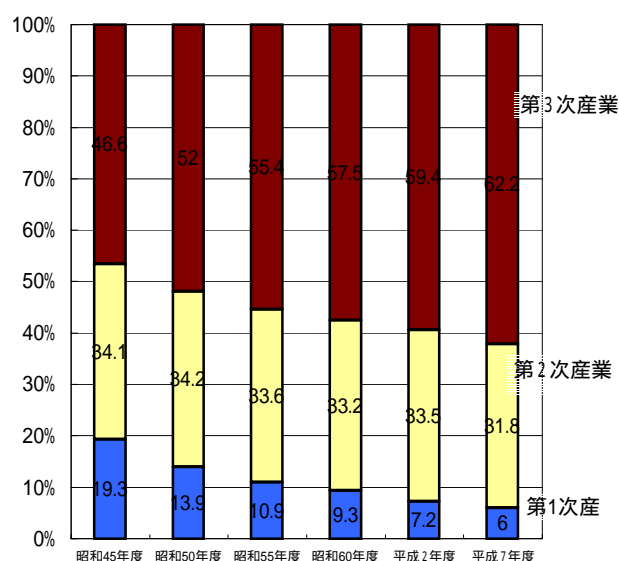
離島の産業分類別就業者数の推移(構成比)



全国の産業分類別就業者数の推移  
(千人)

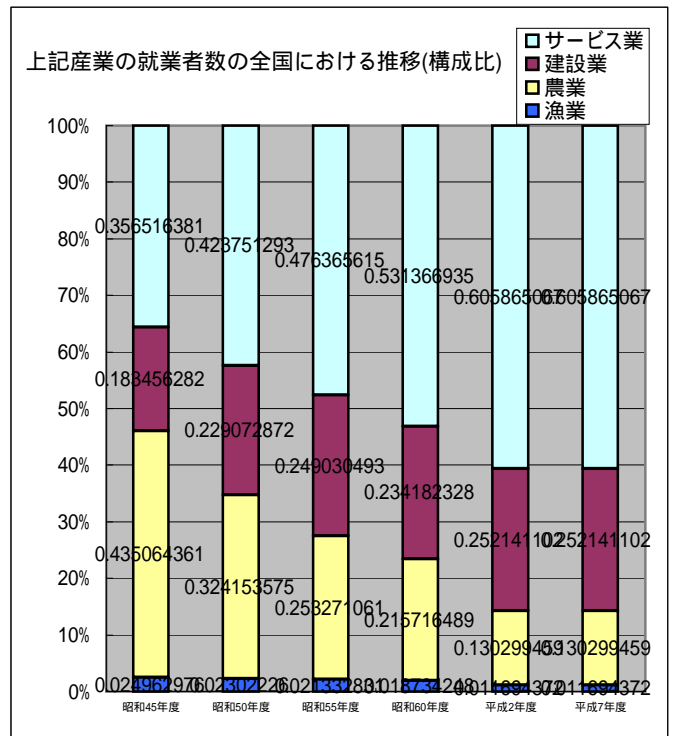
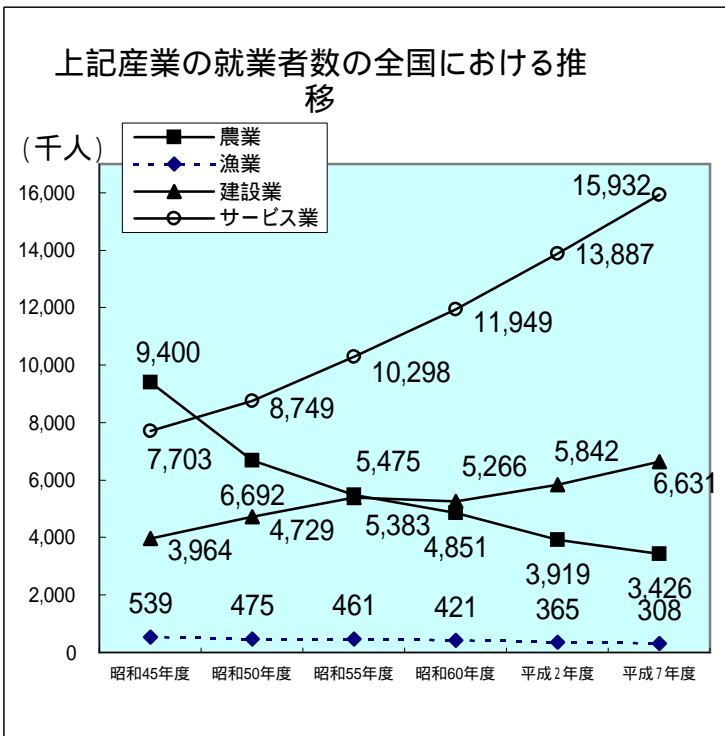
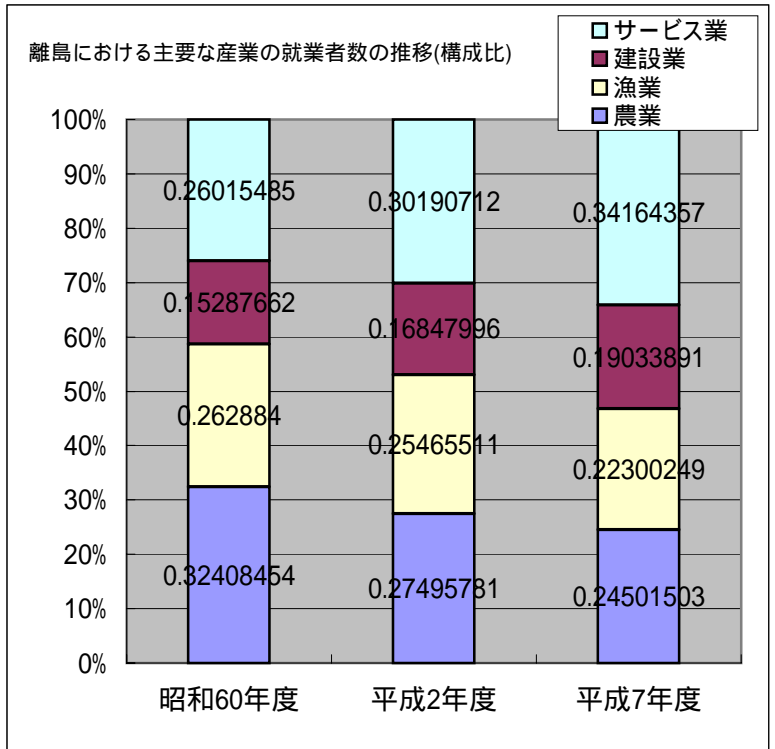
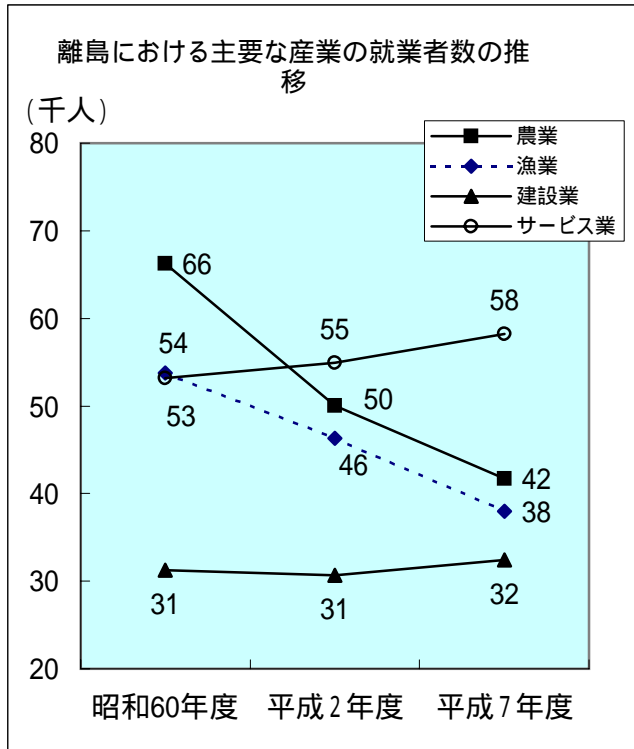


全国の産業分類別就業者数の推移(構成比)



# 離島における主要な産業の就業者数の推移の比較（離島と全国）

離島における主要な産業の就業者数の構成比の推移をみると、第1次産業の農業及び漁業は、昭和60年度から減少している。この傾向は全国でもみても同様である。第2次産業の建設業は、増加傾向にあり、これも全国の傾向と同様である。第3次産業のサービス業についても、増加傾向にあるが、増加のペースは全国に比べて緩やかである。

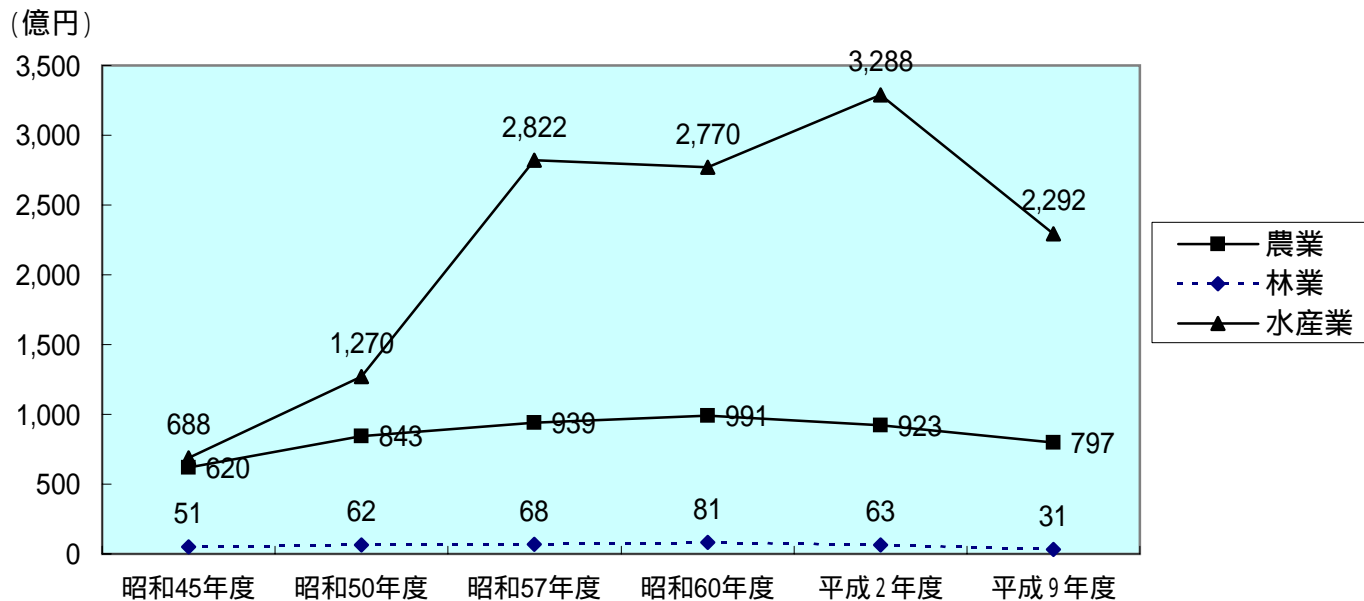


## 離島における農林水産業生産額の推移

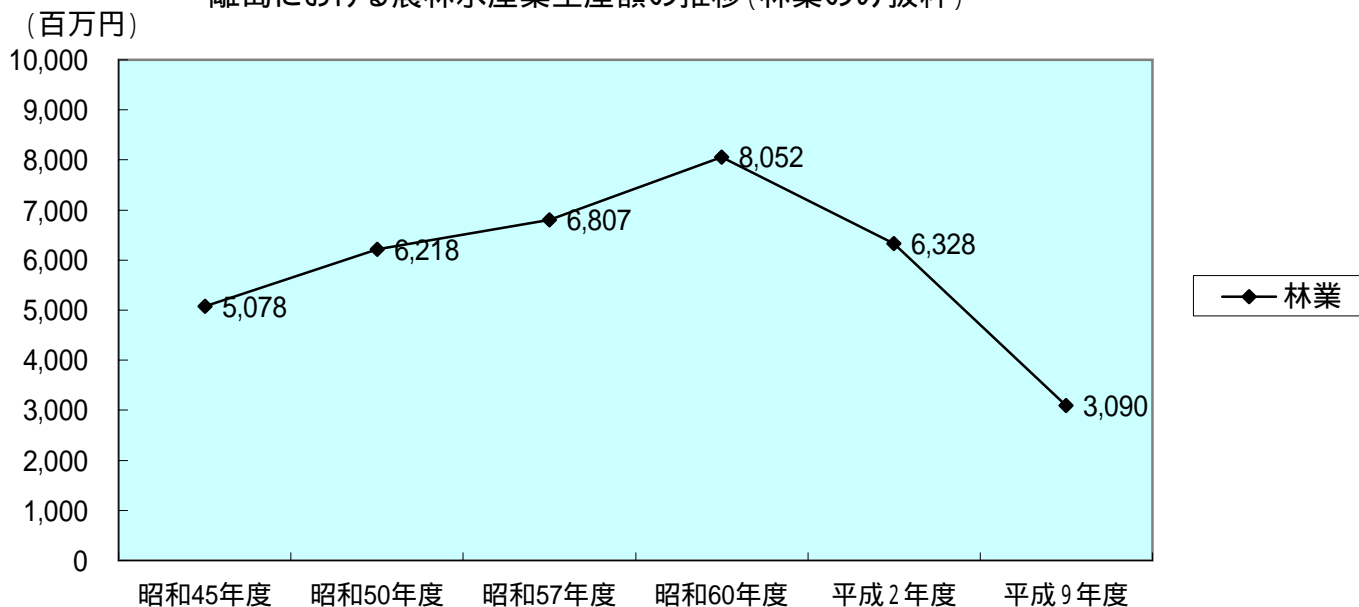
離島の農林水産業生産額をみると、水産業は、昭和45年度には農業と同程度の生産額であったが、沖合漁業の伸び等によって、昭和50年代に飛躍的に生産額が向上した。その後、水産資源の減少、国際的な漁業規制の強まり等により、減少傾向になっている。

農業、林業については、緩やかな増加傾向を続けていたが、近年は減少傾向にある。

### 離島における農林水産業生産額の推移



### 離島における農林水産業生産額の推移(林業のみ抜粋)



## 観光客数及び宿泊者数の推移の比較（離島と全国）

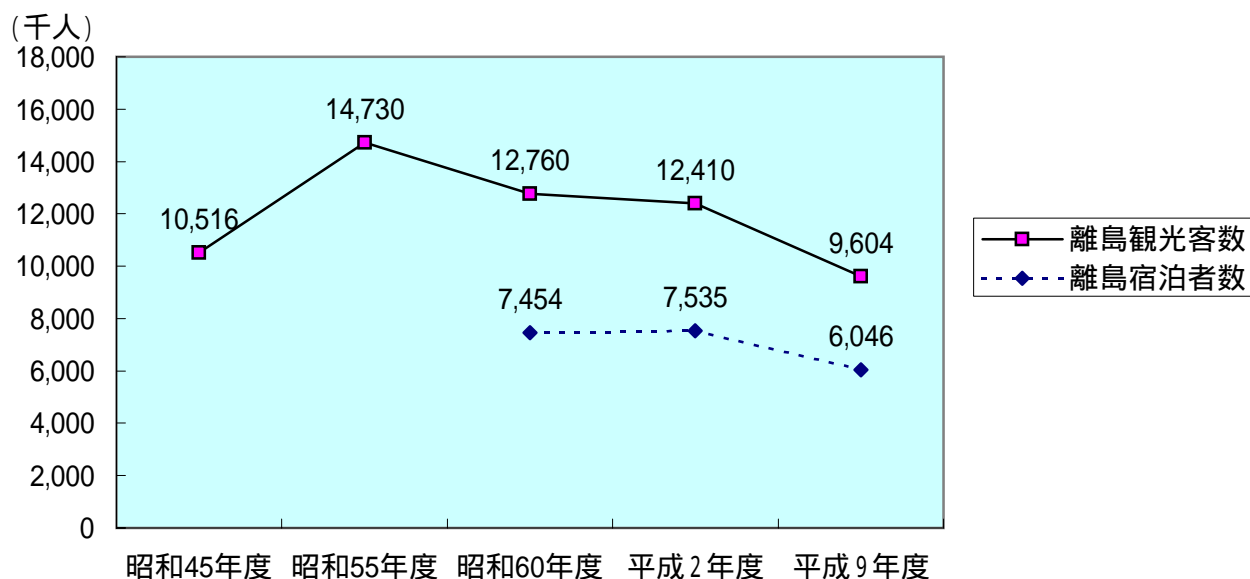
離島の観光客数は、昭和45年度の10,516千人から昭和55年度には離島ブームも手伝って14,730千人に増加したが、昭和60年度には12,760千人に減少し、平成9年度には9,604千人となっている。

一方、全国の観光客数は、昭和55年度の14,000万人から増加し続け、平成11年度では19,600万人となっている。

離島の宿泊者数は、昭和60年度以降のデータしかないが、昭和60年度の7,454千人から平成9年度の6,046千人へと減少傾向が続いている。

全国の宿泊者数は、昭和45年度の8,300万人から平成11年度の12,662万人まで増加し続けている。

### 離島の観光客数及び宿泊者数の推移



(注：離島の観光客数からは香川県与島のデータを除いている。)

### 全国の観光客数及び宿泊者数の推移

